



25 西村治兵衛

《綴錦平等院鳳凰堂図》

一枚

明治二十八年（一九〇五）

綴織

総二三八・五×三六一・〇

京都府 第二部第二十一類

妙技二等賞

明治二十八年の第四回内国勸業博覧会出品作で、妙技二等賞を受賞し、宮内省買い上げとなった。日本画の原画による平等院鳳凰堂の秋景を綴織で表し、水面や空の微妙な色の変化までを、淡い色合いの色糸によつて見事に織りあげている。原画は谷口香嶠、織工は中井弥七である。中井はこの作品における技術を認められ、妙技三等賞を受賞している。

西洋においては絵画的な図様を綴織で表した壁掛け（タペストリー）が製作されてきた伝統があるが、羊毛等を用いて比較的厚手のものを中心としていた。本作のような上質の絹を用いて、柔らかな薄手に織り上げられた綴織による壁掛けは、日本の伝統的な綴織から生み出されたもので、川島甚兵衛（二代）を中心に西陣において明治二十年代から数々の大作が造られていく。川島はこうした綴織を「綴錦」と呼んだ。綴錦の作品は内外の博覧会へ出品されて高い評価を得て、ついには大正二年、オランダのハーグ平和宮殿の室内を飾るまでにいたるのである。

本作は実業家としても知られた西村治兵衛（十三代、一八六一―一九一〇）の出品によるもの。なお、西村治兵衛家は千切屋の分家の一つである。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

内国勸業博覧会 ― 明治美術の幕開け

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 57

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十四年四月二十一日発行

© 2012, The Museum of the Imperial Collections